

元気で躍進 地域経済

医療機器6社が連携

MMM 松阪メディカルメンバーズ

松阪市内の医療機器メーカー6社が8日、連携して課題に立ち向かい、将来的には共同開発にも乗り出そうと松阪メディ



カルメンバーズ(MMM)を立ち上げた。6社は別に本業を持ちながら新たに医療機器分野に参入した企業。この日午後1時から事務局を置く同市大

口町の三重化学工業株のミエラボで発足式が行われた。6社は同市広陽町に三重プラントを置くプラスチック製日用品の岩崎工

業株(本社||奈良県大和郡山市、岩崎能久代表取締役社長)と、自動車部品の株オクムラ(本社||松阪市曲町、田中寛人代表取締役社長)、営業倉庫業の株サカキ&Eワイズ(本社||同市上川町、神宏之代表取締役社長)、電子検査機器の橋本電子工業株(本社||同市高須町、橋本耕成代表取締役社長)、保冷剤・作業用手袋の三重化学工業株(本社||同市大口町、山川大輔代表取締役社長)、市内に3工場を持つ自動車部品の三重金属工業株(本社||津市、平谷雅弘代表取締役社長)。

三重化学工業の山川社長(44)が発起人となり、6月にミエラボで初めて発足式に参加した家根谷リーダー(左から4人目)と来賓の竹上市長(同3人目)ら||大口町の三重化学工業で

意見交換。同市で医療機器を製造販売している会社ばかりで、県が進める「みえメディカルバレー構想」に参加し近年継続的にヘルスケア関連事業に取り組んできた6社が集まった。

もともとお互い異業種で、それぞれ医療機器分野以外の長年の本業があり、コアとなる技術・ノウハウを持つ。「お互いをもっとよく知り、連携・共創することで、医療分野で抱える課題の解決につなげたい」「下請け業

からの脱却にもつなげた」と手を組むことにした。

今後は、2カ月に1回程度、メンバーが集まって人的交流・技術交流を図り、医療分野における

新商品を共同開発 協同組合設立も視野

リーダーは1年ごとの持ち回りで、初代リーダーには岩崎工業の家根谷武常務取締役(57)が就任。開会のあいさつで「われわれ中小企業6社はそ

情報共有・連携・共創を目指す。会員以外の医療機器メーカーや医療機器商社、医療従事者らの参加も仰いでいく。

発足式には6社の代表らと来賓の竹上真人市

れぞれ異業種で別に本業があるが、新しい分野にチャレンジしていきこうと大変前向きな6社」と言い、新規参入にさまざまなハードルのある医療分野であっても「6社がしっかりと融合してまとまることによって医療業界

長、森下優彰中部経済産業局ヘルスケア産業室長、中村昌司・県医療保健部業務課長、オブザーバーの加藤貴也・三重大学准教授ら25人が参加した。

で松阪発、三重県発の新開発商品が生まれる」と意気込む。具体的な共同開発はこれからだが「まずは6社を回って、各社の技術・ノウハウを知り、意見交換していきたい」と。将来的には協同組合設立も視野にある。